

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

事業名 <small>はこだてしんそとかんじょう</small> 函館新外環状道路（一般国道278号） 空港道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局		
起終点 自： <small>ほっかいどうはこだて ききょう</small> 北海道函館市桔梗町 至： <small>ほっかいどうはこだて かみゆのかわ</small> 北海道函館市上湯川町	延長 10.0 km			
事業概要 函館新外環状道路は、函館市桔梗町を起点とし、函館市古川町に至る延長約15kmの地域高規格道路である。 空港道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び重要港湾函館港、拠点空港函館空港等への物流効率化等を支援するとともに、函館市内の交通混雑の緩和、交通事故の低減等による道路交通の定時性、安全性の向上を目的とした函館インターチェンジから函館空港インターチェンジに至る延長10.0kmの事業である。				
H19年度事業化	H18年度都市計画決定 (H一年度変更)	H20年度用地着手	H21年度工事着手	
全体事業費	約639億円	事業進捗率	49%	
計画交通量	14,300～29,700台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.8 (残事業) 2.9	総費用 (残事業/事業全体) 356/565億円 (事業費：334/542億円) (維持管理費：22/22億円)	総便益 (残事業/事業全体) 1,037/1,037億円 (走行時間短縮便益：840/840億円) (走行経費減少便益：129/129億円) (交通事故減少便益：69/69億円)	基準年 平成25年
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=1.8～2.1（交通量±10%） 事業費：B/C=1.7～2.0（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.7～2.0（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=2.9～3.4（交通量±10%） 事業費：B/C=2.7～3.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.7～3.1（事業期間±20%）				
事業の効果等 事業の必要性及び効果				
①交通混雑の緩和 ・函館・江差自動車道と一体となった環状道路が形成され、市内に流入する交通の分散と産業道路等を通過する交通の転換が見込まれ、交通混雑の緩和が期待される。				
②道路交通の安全性向上 ・函館・江差自動車道と一体となった環状道路が形成され、市内に流入する交通の分散と産業道路等を通過する交通の転換が見込まれ、道路交通の安全性向上が期待される。				
③拠点空港への利便性向上 ・速達性及び安定性の高いルートが確保されることで、北斗市から函館空港までの所要時間が短縮されるなど、函館空港への利便性向上が期待される。				
④物流の利便性向上 <水産品の流通利便性向上> ・ウニ加工品の品質低下防止や定時性の確保が見込まれ、水産品の流通利便性向上が期待される。 <農産品の流通利便性向上> ・函館空港への速達性及び安定性の高いルートが確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。				
⑤工業団地等の利便性向上 ・工業団地からの函館空港などの主要交通拠点や主要都市へのアクセス向上が見込まれ、企業立地の促進と函館市の税収増加など、地域経済の活性化が期待される。				
⑥拠点開発プロジェクトの支援 ・道内や新幹線駅及び函館空港などの主要拠点からのアクセスが高まり、施設利用の利便性向上とともに、地域プロジェクトの円滑な推進及び運営を支援する。				
⑦観光地への利便性向上 ・産業道路に代わる円滑で安定性及び快適性の高い周遊ルートが確保され、観光拠点への利便性向上が期待される。				

⑧救急搬送の安定性向上

・七飯町から函館市の医療施設までの所要時間が短縮されるなど、救急搬送の迅速性・安定性向上が期待される。

⑨CO<sub>2</sub>排出量の削減

・自動車からのCO<sub>2</sub>排出量3,884(t-CO<sub>2</sub>/年)の削減が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

函館市など2市9町の首長等で構成される「北海道渡島総合開発期成会」等より、整備促進の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、重要港湾函館港、拠点空港函館空港、新幹線駅へのアクセス強化とともに、函館市内の交通混雑の緩和、交通事故の低減等が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、平成18年3月30日付け環政第1825号「函館圏都市計画道路1・4・3新外環状線環境影響評価準備書について」の知事意見を遵守するなど環境に配慮するとともに、都市計画に沿って整備を図ること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・函館新道が七飯藤城IC～函館ICまで開通
- ・函館・江差自動車道が函館IC～北斗茂辺地ICまで開通
- ・北海道縦貫自動車道が八雲IC～大沼公園ICまで開通
- ・函館新外環状道路が函館IC～赤川ICまで開通
- ・一般国道278号尾札部道路が函館市尾札部町～豊崎町まで開通
- ・一般国道278号鹿部道路が全線開通
- ・北海道新幹線 新青森駅～新函館北斗駅間が開業
- ・函館空港滑走路3,000mに延長、函館空港新ターミナルビル開業
- ・北海道立道南四季の杜公園開園
- ・函館アリーナ及び函館フットボールパーク開館

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度に工事着手して、用地進捗率98%、事業進捗率49%となっている。(平成28年3月末時点)

平成26年度：函館IC～赤川IC間 延長2.4km(2/4)部分開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

平成32年度：函館IC～赤川IC 延長2.4km(4/4)、  
赤川IC～函館空港IC 延長7.6km(2/4)開通予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

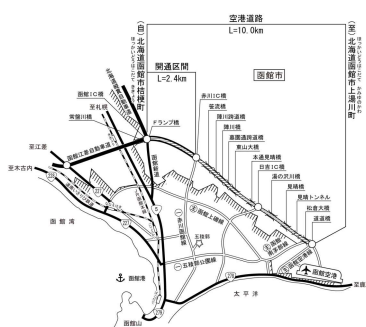
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものを。

※ 費用対効果分析に係る項目は平成25年評価時点。